

イベント情報 (1月~3月)

電話 (04-2934-4396) で博物館までご連絡ください。また、公式ホームページからお申し込みできます。

◆大人の自然観察会

~冬の雑木林の生きものたち~

寒い冬、一見静かな森の中でひっそりとたくましく存在している生きものたちを観察します。初心者向け。

日時：1月21日(土)9:30~12:00
対象：中学生以上
定員：20名(12/21受付開始・先着順)
参加費：100円(保険代)

◆里山体験教室

伐採体験とミニミニほだ木づくり

里山の雑木林管理作業を体験する教室です。木の伐採としいただけのほだ木を作ります。

日時：1月28日(土)10:00~14:30
対象：小学生以上(小学生は保護者と参加)
定員：20名(12/28受付開始・先着順)
参加費：300円(保険代・材料費)

◆さとやま交流会 ~たき火に集う~

若者向け里山満喫イベント登場! たき火を囲んで簡単な料理や自然のクラフト作りを楽しんでみませんか?

日時：2月12日(日)10:00~15:00
対象：大人(20~40歳代)
定員：20名(1/4受付開始・先着順)
参加費：1000円(保険代・材料費)

◆みどり森 里山ようちえん

幼児期に親子で里山の自然と触れ合い、野外で遊ぶ事を目的とした、自然体験型の森のようちえんです。発育段階に合わせて、2つの組に分けて実施しています。

定員：各20名(先着順)
参加費：親子2名で1000円(保険代・材料費・おやつ代)
※1名追加ごとに500円

【オタマ組】

日時：2月22日(水)10:00~13:30(1/22受付開始)
対象：2016年4月1日の時点で満2~3歳の未就学児と保護者

【カエル組】

日時：2月19日(土)10:00~13:30(1/19受付開始)
対象：2016年4月1日の時点で満4~5歳の未就学児と保護者

◆里山文化教室 ~歴史めぐり~

みどり森周辺の史跡などを巡って歩きながら、里山の人々との歴史的つながりを学びます。

日時：3月25日(土)10:00~15:00
対象：中学生以上
定員：20名(2/25受付開始・先着順)
参加費：300円(保険代・資料代)

◆親子はじめての自然観察

親子向けの自然観察会です。春を迎えたり森で、生きものたちを観察します。

日時：3月26日(日)9:30~12:00
対象：小学生と保護者
定員：20名(2/26受付開始・先着順)
参加費：100円(保険代)

◎1月~3月までのガイドウォーク実施予定◎

実施日：1月 8日(日) 11:00~12:00
3月11日(土) 13:00~14:00
※実施時間にご注意ください。
参加費：無料 受付：当日、案内所窓口にて

★みどり森ガイドウォーク実施中!

上記イベントの他、右記日程で当日募集型のガイドウォークを実施中(定員15名、年齢制限なし)案内所や大谷戸湿地周辺をご案内します。内容は毎回変わりますので、どんなテーマかは当日までのお楽しみ!

博物館の利用案内

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。

◆アクセス◆

- 公共交通機関をご利用の場合■
小手指駅南口より西武バス「宮寺西」または「金子駅入口」行き乗車、約25分「荻原バス停」下車、徒歩約10分
- 案内所までの地図■
右のQRコードを読み込むと緑の森博物館のHPのアクセスページが開きます。(一部、携帯電話では確認できない機種があります)
- ご来館時のお願い■
駐車スペースに限りがありますので電車・バスをご利用ください。



発行年月	2017年1月	開館時間	9:00~17:00 【入館無料】
発行	さいたま緑の森博物館	休館日	月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
住所	〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1	公式HP	http://saitama-midorinomori.jp/
TEL/FAX	04-2934-4396	指定管理者	株式会社自然教育研究センター

さいたま緑の森博物館 ニュースレター はくぶつかんだより

Saitama Midori-no-mori Nature Park

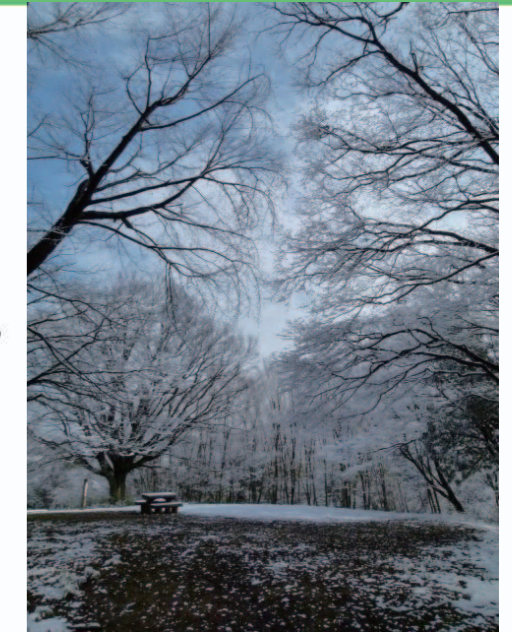
厳しい寒さと目覚め

1月から2月は、一年で一番気温が下がる季節。みどり森の生きものたちにとって、寒さと雪の厳しい季節の到来です。雪が積もった後は、足跡などの生きものたちの痕跡が残されていることもあり、冬の厳しさの反面、普段見られない楽しみもあります。

これから初春にかけては、いのちが再び息吹くために少しずつ眠りから目覚めていく時間ともいえるのではないのでしょうか。木々が再び芽吹く様子や短くなった日が再び長くなる様子に、昔の人たちも生命の再生を感じていたのかもしれない。

今号のニュースレターは・・・

みどり森が位置する狭山丘陵には縄文時代の遺跡がたくさん見つかっています。今号は、人間の歴史のなかでも、おそらく人と自然がもっとも色濃く絡み合っていたであろう、縄文の時代に焦点をあててみました。文字による記録手段を持たなかった当時の生活は、未だミステリーのままですが、冬のみどり森で縄文時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか?



雪の日の展望広場

みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館がテーマとしている雑木林や湿地・文化などについて、毎号キーワードを挙げて紹介しています。今回は『雑木林管理の道具(冬)』です。

木々の葉が落ちきる頃、農閑期に入った農家は山仕事の道具を手に「落ち葉」や「薪」などを集めに雑木林に入ります。

【落ち葉掃きの道具】

《熊手》
落ち葉を集めるのに使います。枝やツタで熊手が壊れないように林床を管理していました。

《クズハキカゴ》
集めた落ち葉を詰め込むための大きな竹のカゴ。地域により八本カゴ・ハチホンバサミ・ミノハツカゴ等の呼び名がありました。

また、大量の落ち葉を一度に運ぶための詰め方があります。

【薪取りの道具】

《マサカリ》
木を倒す時の受け口を作るのに使います。

《伐採用のノコギリ》
マキノコ等と呼ばれ木を倒したり、薪の長さに玉切りするのに使われます。目立てなども自分たちで行います。

《ヤ(クサビ)》
ノコギリで追い口を切り、その切れ目に「ヤ」を打ち込み木を倒します。

《シヨイタ》
薪等を運び出すのに使います。一人一人の背中に合わせて作られていたそうです。

縄文ミステリー探訪

今から1万1500~3000年前、日本は縄文時代と言われる時代でした。狭山丘陵は、縄文中期の遺跡が多く発見されている場所でもあります。本号では、現在に残された手がかりから、みなさんを縄文の頃みどり森に住んでいた人々の生活を想像する探検にいきます。

知ってましたか？~みどり森にも縄文遺跡が！~



自然豊かなみどり森の中にも、実は、縄文の遺跡がいくつかあることがわかっています。その多くは、縄文中期（今から約5千年前）のものでした。

ほとんどの遺跡は、散らばった土器のカケラや、石器等が見つかる「散布地」ですが、なかには住居が建てられていた「集落跡」もあります。



まずはみどり森で見つかる縄文ゆかりのものを探し、そこから当時の暮らしを想像してみましょう。

※お願い：園路外の立ち入りや、土地所有者の許可なく、園路内外および周囲の畑で発掘することはおやめください。

探してみよう①

意外と身近！？~縄文土器~

みどり森の近くの畑では、農作業で石を取り除いているとき、知らず知らず土器のカケラをほり出していることがあります。縄文土器は、場所によっては地表ちかくにうまっているのです。

土器片と石の違い~見分け方~

土器のカケラは、どうしたらそれとわかるのでしょうか？土器片は普通の石よりも赤茶色で厚みがあり、キラキラしたものが入っていたりします。これは土器を作るときに、縄文人が砂などを混ぜていたからです。

また、元々うつわだったため、わん曲していたり、焼いたときの焦げた黒っぽい色がついていることもあります。

もし、足下に落ちていたものが土器片だったらとってもラッキー！あなたの踏んでいる石もひょっとして…!?



番外編

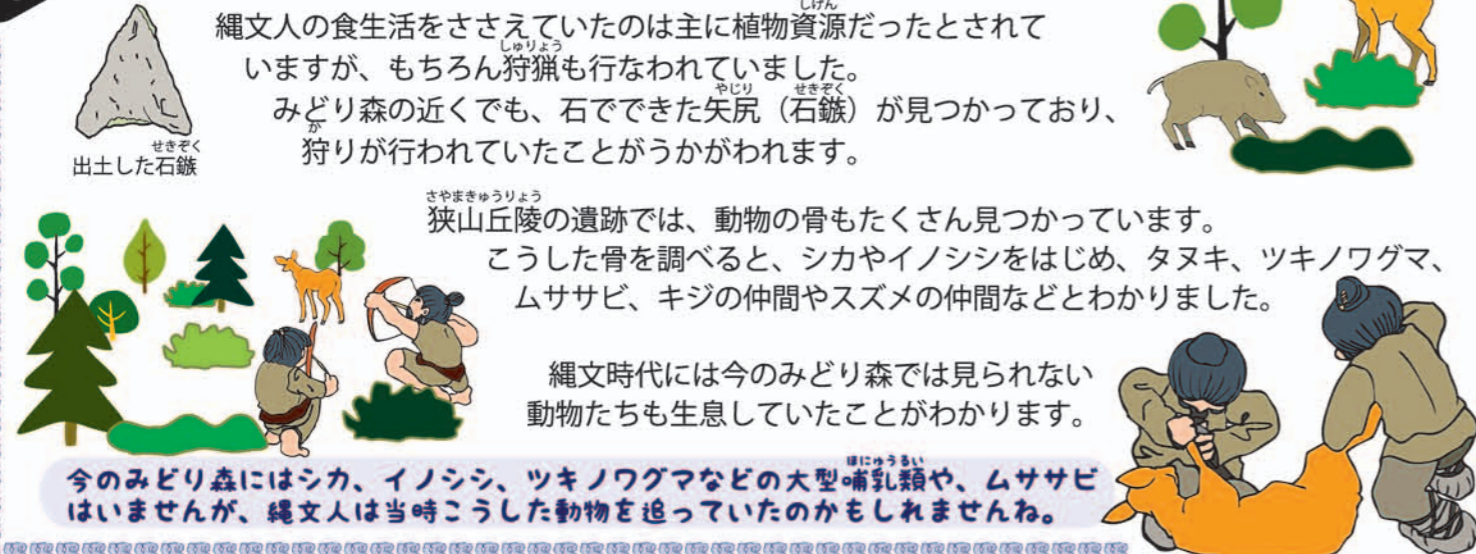
今はない森のめぐみ

縄文人の食生活をささえていたのは主に植物資源だったとされていますが、もちろん狩猟も行なわれていました。みどり森の近くでも、石でできた矢尻（石鏃）が見つかっており、狩りが行われていたことがうかがわれます。

狭山丘陵の遺跡では、動物の骨もたくさん見つかっています。こうした骨を調べると、シカやイノシシをはじめ、タヌキ、ツキノワグマ、ムササビ、キジの仲間やスズメの仲間などとわかりました。

縄文時代には今のみどり森では見られない動物たちも生息していたことがわかります。

今のみどり森にはシカ、イノシシ、ツキノワグマなどの大型哺乳類や、ムササビはいませんが、縄文人は当時こうした動物を追っていたのかもしれない。

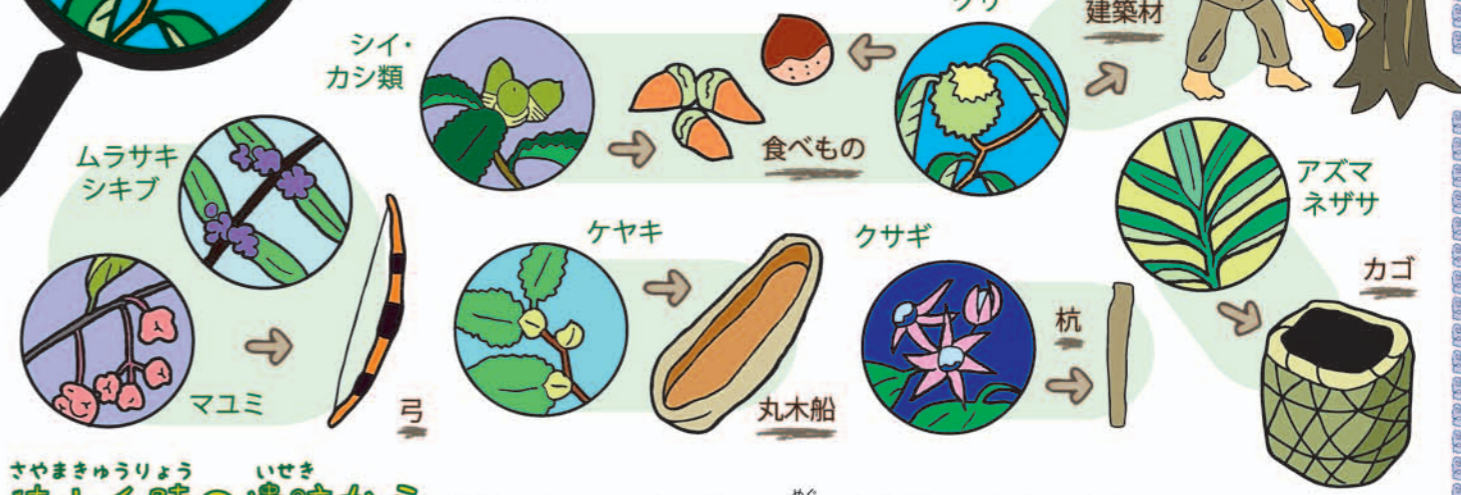


探してみよう②

今も健在！？~縄文人が利用していた木たち~

縄文人は木の特性にくわしく、道具として加工するのに適した木、食用の実のなる木などを選んで利用していました。

下図は縄文人が好んで利用していた木々です。それぞれ、どんな利用をしていたのでしょうか？



狭山丘陵の遺跡からヒモとく縄文の森

縄文の人は、こうした森の恵みを効率よく使えるように集落の周りの林を管理していたようです。

狭山丘陵には、当時の森の様子を今に伝える2つの興味深い遺跡があります。これらをヒントに当時の森を思い描いてみましょう。

自然林 お伊勢山遺跡（所沢市）

多くの自然木が出土し、ほとんど人の手が加えられていない林の様子わかります。

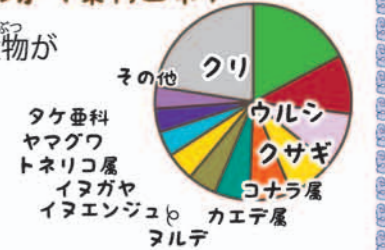
モミ・ナラ類の多い自然林だったのでしよう。



縄文人の林 しもやけべ 下宅部遺跡（東村山市）

加工されたあとのある、木製の遺物が出土しています。

自然林には少ないクリや、人がいないと育たないウルシが多く使われていることから、人が管理した林があったことがわかります。



みどり森でも集落のまわりには、こうした森が広がっていたのでしょうか？もしかすると、今あなたの見ているクリは縄文人の植えた木の子孫かもしれませんね。

実は、みどり森にある縄文時代の集落は、まだ調査されていない遺跡です。縄文の人たちは、今も見られる植物を上手く利用しながら生活していたようです。みどり森の集落に住んでいた縄文人は、どんな生活をしていたのでしょうか？このニュースレターを手に、縄文の生活を想像しながら散策を楽しんで下さい。

※なお、国内の土地や周辺の畑には所有者がいますので、園路外や私有地に勝手に立ち入った土器探しはしないで下さいね。